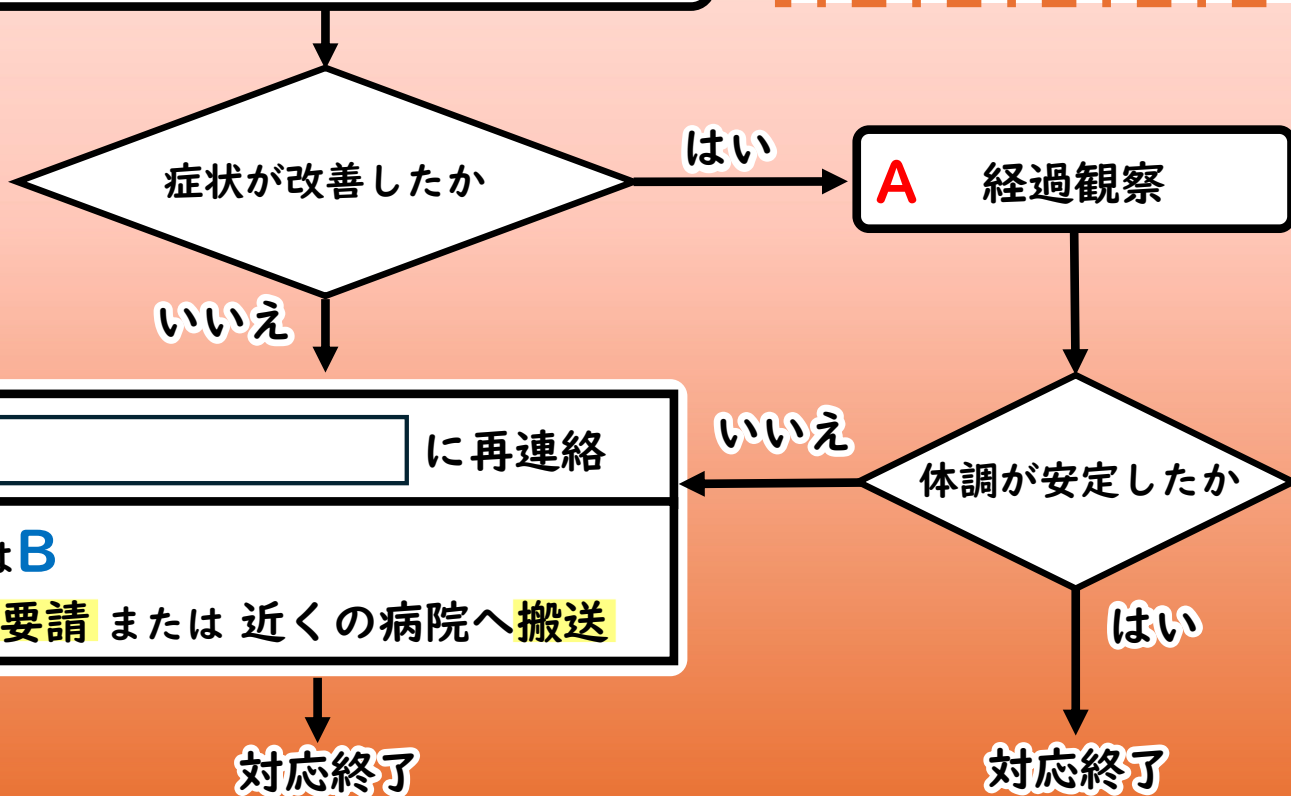


熱中症のおそれのある者に対する処置の例 フロー図

- A** ・ 熱中症発症または熱中症患者発見
 ・ **B** に連絡
 ・ 作業を中断して応急処置
 (身体冷却・水分補給など)

A : あなた
 (発症者・発見者)
B : 熱中症担当者



熱中症のおそれがある時の連絡体制

熱中症が疑われる主な症状例：【他覚症状】ふらつき、生あくび、失神、大量発汗、痙攣等
 【自覚症状】めまい、筋肉痛・筋肉の硬直（こむら返り）、頭痛、不快感、吐き気、倦怠感、高体温等

① 熱中症担当者

担当者：
 TEL：

- ・ **A**は**B**に連絡がつかない時は
応急処置や陸上・洋上救急要請を優先し、事後にBへ連絡すること。

② 救急・近隣病院

陸上救急要請 119番
 洋上救急要請 118番
 近くの病院：
 住所：
 TEL：

仕事が終わった後でも、体調が悪化したと感じたら、すぐに救急隊を呼んでください！
 熱中症は回復後に症状が悪化する場合があります！